

《担当者名》准教授/町田 拓自
 教授/遠藤 泰 教授/柳川 芳毅
 准教授/伊藤 邦彦 准教授/小田 雅子 准教授/中川 勉
 講師/久保 儀忠 講師/鹿内 浩樹

【学修目標】

薬理・薬物治療系
 薬物療法学 ～ の基礎的事項について説明できる。

薬剤系

製剤学、製剤工学、生物薬剤学 ・ 、薬物速度論の基礎的事項について説明できる。

法規制度系

薬事関係法規の基礎的事項について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	薬理学と薬物治療 資料を配布する	自律神経系・体性神経系に作用する薬物について問題演習を通して基本的事項を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -1～4, -1～3	町田 拓自
2	薬理学と薬物治療 資料を配布する	循環器系・血液造血管系に作用する薬物について問題演習を通して基本的事項を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1～5, -1～5	町田 拓自
3	薬理学と薬物治療 資料を配布する	中枢神経系に作用する薬物について問題演習を通して基本的事項を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- -1～11	鹿内 浩樹
4	薬理学と薬物治療 資料を配布する	代謝系・内分泌系に作用する薬物について問題演習を通して基本的事項を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(5)- -1～3, -1～5	鹿内 浩樹
5	薬理学と薬物治療 資料を配布する	炎症・免疫系に作用する薬物について問題演習を通して基本的事項を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(2)- -1～8, -1, 3	柳川 芳毅
6	薬理学と薬物治療 資料を配布する	感染症治療薬について問題演習を通して基本的事項を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- ~	柳川 芳毅
7	薬理学と薬物治療 資料を配布する	消化器系に作用する薬物について問題演習を通して基本的事項を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(4)- 1～9 -1	遠藤 泰
8	薬理学と薬物治療 資料を配布する	抗悪性腫瘍薬について問題演習を通して基本的事項を概説できる。	遠藤 泰

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- ~	
9	製剤学	製剤学の概要、日本薬局方における各種製剤の定義と試験法を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E3-(2)- ~	中川 勉
10	製剤工学	製剤工学および物理薬剤学の基本的事項を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E3-(1)- ~	中川 勉
11	生物薬剤学	薬物の生体膜透過、吸収、分布の重要性を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E4-(1)- ~	小田 雅子
12	生物薬剤学	薬物の代謝と排泄の重要性を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E4-(1)- ~	小田 雅子
13	生物薬剤学	薬物の代謝と排泄の重要性を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E4-(1)- ~	小田 雅子
14	薬物速度論	薬物の血中濃度推移について速度論的に説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E4-(2)-	伊藤 邦彦
15	法規制度	医薬品に関連する法律について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(2)-	久保 儀忠
16	法規制度	医薬品に関連する制度について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(2)-	久保 儀忠

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による。

【評価方法】

期末定期試験(100%)

【教科書】

これまで使用してきた各教科の教科書

【参考書】

コアカリ・マスター Vol.2（薬学ゼミナール）

コアカリ・マスター Vol.3（薬学ゼミナール）

【備考】

適宜プリントを配布する。

【学修の準備】

当日の授業範囲をこれまでに履修した科目と照らし合わせながら予習し、疑問点を把握しておくこと（50分）。

配布された練習問題を活用した復習を行い、授業内容の理解を深めること（50分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

B 薬学と社会

(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 ~

E2 薬理・病態・薬物治療

(1) 神経系の疾患と薬 ~

(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬 -1~8, -1, 3

(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬 -1~4, -1~3

(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬 -1~3, -1~5

(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬 ~

E4 薬の生体内運命

(1) 薬物の体内動態 ~

(2) 薬物動態の解析

E5 製剤化のサイエンス

(1) 製剤の性質 ~

(2) 製剤設計 ~

(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム) ~

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

遠藤泰（薬剤師）、小田雅子（薬剤師）、久保儀忠（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験から修得した事項をもとに、必要な知識について教育を行う。